



《会計・税務の知識》融資の際に重要となる財務指標～決算書を見直す～

はじめに

前回では、融資の際に重要となる財務指標を三つご紹介しましたが、ご紹介した指標以外にも定量的な財務分析が行われることとなります。

(2013. 1. 17号 「融資の際の重要となる財務指標」

<http://img01.ecgo.jp/usr/koyano/img/130117143441.pdf>)

財務指標や財務分析の基となる会計数値は、特に税金計算が中心となる中小企業において間違いとはいえないまでも適切に会計処理が行われていない場合が少なくありません。

そこで、本稿では大幅な財務改善を実行することなく、適切な会計手法を用いることによる財務指標の改善ポイントについて、いくつかご紹介いたします。

1. 損益計算書の改善ポイント

損益計算書は売上高から各段階の利益が順番に表示（売上総利益→営業利益→経常利益→税引前当期純利益）（損益計算書の構造は別稿「[ベンチャー企業経営の基本～決算書の感じ方・損益計算書編～](#)」をご参照ください）され、一般的に前の利益が重視されます。いくつか改善項目をみていきましょう。

○売上高・売上原価

売上原価として計上されていたものを販売費及び一般管理費や営業外費用・特別損失に計上することにより改善することができます。

- ・売上原価に計上されている消耗品・見本品を販売費及び一般管理費に振替える。
- ・商品を廃棄した場合の費用を特別損失に計上する。
- ・売上割引を売上高から控除又は売上原価から営業外費用に計上する。
- ・雑収入に計上されている項目を売上高に計上する。

○販売費及び一般管理費

販売費及び一般管理費には多くの科目が存在するため、費用の性質（金融取引など）を考慮せずに計上されているケースが散在されていることがあります。費用の性質を考慮し他の階層に計上することも可能であると考えられます。

- ・クレジットカード会社への手数料を営業外費用に計上する。
- ・租税公課に計上されている法人税、住民税及び事業税を法人税等に計上する。
- ・追徴税額を法人税等に計上する。

○営業外収益

- ・従業員から徴収する諸経費を雑収入ではなく販売費及び一般管理費から控除する。
- ・他社と費用を折半している場合に支払われる他社負担分を販売費及び一般管理費から控除する。

2. 貸借対照表の改善ポイント

貸借対照表の構造は別稿「[ベンチャー企業経営の基本～決算書の感じ方・貸借対照表編～](#)」をご参照ください。貸借対照表でのポイントは早期に換金できる流動資産が高く、早期に支払が生じる流動負債が低いことが重視されます。

会計実務上では流動資産に計上されるべきものが固定資産に計上されている状況はそれほど多くなく、固定負債に計上できるものが流動負債に計上されていることが多く見受けられます。いくつかの改善ポイントをみていきましょう。

○流動負債を固定負債に振替える

- ・役員からの借入金を固定負債に計上する。
- ・リース負債を固定負債に計上する。
- ・長期にわたる保証金などの預り金を固定負債に計上する。
- ・1年を超える未払金を固定負債に計上する。

おわりに

以上のように、中小企業の多くは適切な会計処理や表示方法にすることにより財務指標を改善することができます。

当然のことながら、これらの手法は会計上のテクニックであり会社の経営活動の実態を改善させるものではありません。財務指標の改善を行うためには、実際の経営活動を見直すことや財務計画を策定・実行に移すことを事前に検討していく必要があります。

(担当：齋藤)